

ミャンマー

バルーチャン第2発電所改修事業



発電所コントロールルーム

[借款概要]

承諾額/実行額	3,530百万円 / 3,460百万円
借款契約調印	1987年11月
借款契約条件	金利2.5%、返済30年（据置10年）
貸付完了	1995年5月

[事業概要]

ミャンマーの中部に位置するバルーチャン第2発電所において、老朽化した発電機等の改修を行い、首都ヤンゴン及びマンダレーへの電力供給を確保するもの。

[評価結果]

本発電所は、1960年に第1期（28MW×3機）、1974年に第2期（同）が完成し、重要な電力供給源としての役割を果たして来たが、完成後長期を経て老朽化が進んだ結果、計168MWの設計能力に対し最大可能出力は142MW程度まで低下していた。

本事業を通じて、1992年から94年にかけて発電機のオーバーホールが実施され、主要部品の交換等が行われた。その結果、出力は回復し、発電量は事業実施前の1,000GWh前後から95年以降は1,200GWh / 年前後へと改善している。

本発電所の電力は、約3分の2が首都ヤンゴン、残りは北部の主要都市マンダレーに送電されており、両都市の電力需要の増加への対応に寄与したものと評価される。

なお、発電機のうち1～3号機（第1期分）は、2001年時点で最大出力が28MWから23～25MW程度に低下しており、原因は本事業の対象とされなかった設備の機能低下等によるものと見られている。今後、補修工事の必要性を含め、適切な維持管理を実施して行くことが必要である。